

こころに吹く風は…<カウンセリングルーム便り>

寒い毎日が続いています。札幌では、マイナス20度を越えたとのニュースが飛び込んできました。暖かな陽だまりが恋しく、北風の吹かない日中にほっと胸をなでおろす日々ですが、子どもたちは元気そのもの。園庭で走り回る姿にたくさんのエネルギーをもらいます。毎日幼稚園に「元気風」を吹かせてくれて感謝。ありがとう、ね。

～ 本年も、どうぞよろしくお願ひ致します。～



日頃の子どもとのかかわり方を振り返ってみましょう。

子どもの心を荒れさせる

～親の4大特徴～ あなたは？

1 態度や感情が不安定 ？

あまりにその時々親の都合や感情に左右されて、子どもに良いことや悪いことを伝えてしまうと、子どもは何が良くて何がダメなのか判断がつかなくなることがあります。

2 ネバならぬ絶対権力 ？

親の価値観が絶対である場合、子どもは常にそれに従わざるをえません。それゆえにいったんその親の価値観から外れてしまった場合、不安が高まって、親の枠の中でしか行動できず、認められないので息苦しくなります。

3 転ばぬ先の杖 ？

多くの親は、できるだけわが子に「無用な苦勞はさせたくない」「悲しい思いをさせたくない」と望むのではないのでしょうか。こうした思いが強くなりすぎると、子どもが失敗しないように子どもの行動を先読みして、口や手を出すことが多くなります。問題を解決する力は、壁にぶつかった時に試行錯誤して工夫することで育っていくものです。

4 子どもに主導権 ？

子どもが激しく反抗したり、かんしゃくを起こしたりするときに親が子どもの行動にどのように対応するかは大切です。子どもの行動の激しさに、子どもの主張通りに物事を進めてしまうと、子どもは、「親は自分の」思い通りに動かすことができる」と勘違いします。

(PHP のびのび子育て 小笠原 恵先生より)

昨年のこの冬のお便りで

**注目される
心の力としての
「レジリエンス」**

について紹介しました。大きな壁にぶつかって失敗しても、そこから立ち直ることのできる力のことです。

親は子どもにとっての大きな障壁を取り除く存在ではなく、どんな壁にも立ち向かえる強くしなやかな心を子どもに育む存在になりたいものです。そのために必要以上の干渉をせずに、時に一步引いて子どもを見守りましょう。それはほったらかしにしましょう、という意味ではありません。

子どもの頑張りを認め、子どもの主張に耳を傾け、親の想いを伝える、そんな親子のかかわりの中で、レジリエンスの高い子が育っていくのです。

★ カウンセリングルームはいつでも予約できます。どうぞ肩の力を抜いて、お気軽にお話し下さい。